

非情な暗黒街に生きる兄弟の運命。  
東宝ギャング映画、記念すべき第一作。

クラシック・シネマ

### 『暗黒街の顔役』

昭和30年代に量産された“東宝ギャング映画”路線第一弾。鶴田浩二の役どころは“義理と人情”の板挟みという、後の東映任侠映画を思わせるもの。下手に作ればただ湿っぽくなってしまう物語を岡本喜八監督がカラッと料理。過剰なカットで見せるアクションはさすが。

豪華なキャストで描く、裏切りと憎しみの  
大ギャング映画。クライマックスは必見!

クラシック・シネマ

### 『暗黒街最後の日』

日本の大手映画会社六社すべてで監督作を発表した驚異の職人・井上梅次監督が放ったギャング映画の雄編。ドキュメンタリータッチのシャープなオープニングからラストの映画史上空前絶後200人銃撃戦までスターの持ち味を上手く生かして一時も飽きさせない手腕は見事。

『ルパン三世』の原型とも言われる  
日活無国籍アクション、知られざる逸品!

クラシック・シネマ

### 『危いことなら銭になる』

監督はフランスのヌーベルヴァークにも影響を与えたという異才・中平康。とぼけたオープニングから泥臭さと洒落っ気が混ざり合ったタッチで最後まで快調に進むアクションコメディ。本作最大の楽しさは息の合った出演陣の掛け合い芝居。会話のリズムがいいんです。

北海道縦断ロケ敢行!  
高倉健、最後の東映アクション!

クラシック・シネマ

### 『大脱獄』

『網走番外地』の石井輝男監督×高倉健最後のコンビ作にして、健さん最後の東映アクション。かなり豪華な出演陣を使い捨て(?)にしていくなかで勝負の物語は70年代の東映映画の味わいがたっぷり。演歌な情感が溢れるエンディングは余韻たっぷり。

火野葦平の自伝的大河小説、初のカラー映画化!  
裕次郎が男を魅せる!

クラシック・シネマ

### 『花と竜』

火野葦平の小説の前半部分を石原裕次郎×舛田利雄監督の名コンビで映画化。海外雄飛願望のある一本気な主人公がぴったりの裕次郎、“必殺キンタマ掴み”を操る勝気な恋女房・浅丘ルリ子と、妖艶な女壺振り・岩崎加根子らスターの魅力で一気に見せきります。